

理想と妄想が生み出した 実現できなかった建築

まぼろしの奇想建築

天才が夢みた不可能な挑戦

著者：フィリップ・ウィルキンソン／発行：日経ナショナル ジオグラフィック社

日経ナショナル ジオグラフィック社（代表：中村尚哉、所在地：東京都港区虎ノ門）は、
『まぼろしの奇想建築 天才が夢みた不可能な挑戦』を9月10日（月）に発行します。

本書は、聖堂、宮殿、監獄、モニュメント、ビル、都市など、建築家や芸術家、思想家たちが理想を掲げ、かつ妄想を最大限に発揮した、実際には存在しなかった建造物を紹介したビジュアル書籍です。

フランス国王を讃えるゾウの形をした凱旋門、ピラミッドより巨大な球形のニュートン記念堂、高さ1.6キロの超高層ビルなど、創造力を自在に駆使し、考える最高のデザインと機能性を追い求め、新しい未来を切り開こうとした革新的なアイデアに驚きがやむことはありません。

幻に終わったにもかかわらず、今日まで語り継がれ、人々の心を惹きつけてやまない、実現すれば息をのむような作品になったであろう、常識をひっくり返すような挑戦に、仰天し、にやりとし、感嘆する。そんな建築物にまつわる50の物語を紹介。時代を超えて語り継がれる夢の設計に、目が離せなくなる一冊です。



まぼろしの奇想建築 天才が夢みた不可能な挑戦

2018年9月10日発行／定価 2,700円＋税／256ページ／ハードカバー／
サイズ：天地246mm×左右189mm／フィリップ・ウィルキンソン 著／
関谷冬華 訳／発行：日経ナショナル ジオグラフィック社

【主な内容】

- CHAPTER1:夢見た理想の都市
ザンクト・ガレン修道院／ダ・ヴィンチの階層構造都市 ほか
- CHAPTER2:啓蒙時代が生んだ奇妙な空間
ホワイトホール宮殿／セント・ポール大聖堂 ほか
- CHAPTER3:急成長する都市
ピラミッド型墓地／アクロポリスの丘の宮殿 ほか
- CHAPTER4:建築の革命
万国博覧会のための音楽堂／フリードリヒ通りビル ほか
- CHAPTER5:輝く都市
ガラスの家／空中レストラン／カトリック大聖堂 ほか
- CHAPTER6:そして未来へ
東京計画／ウォーキング・シティ／マンハッタンドーム ほか

ナショジオストア <http://nationalgeographic.jp/atcl/product/18/080600016/>
Amazon <https://www.amazon.co.jp/gp/product/4863134185/>

- 建築マニアだけではもったいない！ 天才たちが生み出した、とてつもない夢の数々！
- 創造力を自由に駆使した建造物を、美しい図版と当時のスケッチ、設計図で詳しく解説！
- 夢とついでた理由、際限なく広がる妄想、時代を先取りしすぎた不運など、逸話も桁外れ！
- 第1回八重洲本大賞受賞、Amazonランキング 歴史ノンフィクション部門、
地理学・地誌学部部門ほか1位を獲得の『世界をまどわせた地図』シリーズ最新刊！

まぼろしの奇想建築 天才が夢見た不可能な挑戦

9月10日発行／日経ナショナル ジオグラフィック社

勝利の凱旋ゾウ

The Triumphant Elephant

シャンゼリゼを飾れど、奇抜すぎる記念碑

動物をかたどった建築物は昔からある。例えば1931年には、ニューヨークのグランドアイランドに巨大なゾウが建設された。そのような建築物のほとんどは、通行人の注目を集める目的でデザインされた手の込んだ完成品だ。1758年に1人のフランス建築家がゾウの形をした建築物を17人の高僧に、現在は凱旋門があるシャンゼリゼに建設するという案を持ち出したときも、誰もが悪い反応だ。だが、設計を手がけたシャルル・フランソワ・ド・カロンは、この案を大々的に進めた。彼はフランス国王を心から魅了し、証としてこの建築物を設計したのだ。

2階建てのゾウ

たいていの人はゾウに魅力を感じるだろう。力持ちの巨体でありながら、その鼻は柔軟かつ繊細に動き、重労働や戦争でも活躍する。ゾウはヨーロッパでは珍しかったが、国王や皇帝のコレクション、あるいは動物園でならならぬと見ることができた。芸術家たちはゾウにはたぶん、異国情緒あふれる力強い象徴としてゾウを愛することもあった。例えば彫刻家のジャン・ロンソワ・ド・ベームは、1667年にエジプト式方尖晶石を載せたゾウの彫刻を制作した。この作品は記念碑として現在もローマのヴィンチ広場に建てられている。この重々たる高貴な動物が、王の威厳と権力の象徴となつたのは当然だった。

だからこそ、シャルルもゾウの形をした記念碑を作ることを望んでいたのだ。凱旋門の形を模した建築物のような伝統的なアイデアはねつけ、彼はゾウの形をした建築物を提案した。中央には各階層につながる階段を設け、鼻の先から水が出る噴水は人々の目を引くだろう。シャルルはこの建築物を「王の宴に捧げる大聖堂」と呼んだ。

こんなアイデアを思いついたシャルルとは、一体どんな人物だったのだろうか。実はシャルルは誰にも知られた建築家だ。シャルルという名字以外に名前すらも知られておらず、実際に手がけた建築物もほとんど知られておらず、彼が近代建築に与えた影響は、建築の歴史と芸術の歴史を合わせた見方からようやく明らかになった。シャルルは自分の考え方をさらに発展させた。著作「自然に見るフランス建築」(1773年)の中で、シャルルは柱の3つの

アイデア満載の記念碑
ドロンソワが考案した凱旋門の柱は、新時代を築き、中央の柱の柱頭に彫刻が施されている。これは建築の歴史と芸術の歴史を合わせた見方からようやく明らかになった。

主な構成要素である柱、柱頭、鼻の3つの部分、つまり鼻の先に水が出る噴水、鼻、鼻を覆う骨格を山並みにしているのではないかと意見が出た。彼はこの理論を基に、鼻が数本ずつまよって生えている様子を描いて、柱を3本単位

100年代のイギリスで、主要な都市の人々が集まる場所として、2つの階層からなる建築物が建てられた。イギリスの建築家ジョージ・ヘンリー・ボウは、この建築物を設計した。ボウは、この建築物を設計した。ボウは、この建築物を設計した。ボウは、この建築物を設計した。

ピラミッド型墓地

Pyramidal Cemetery

ロンドンの墓地問題を解決する94階建てのピラミッド

1800年代のイギリスで、主要な都市の人々が集まる場所として、2つの階層からなる建築物が建てられた。イギリスの建築家ジョージ・ヘンリー・ボウは、この建築物を設計した。ボウは、この建築物を設計した。ボウは、この建築物を設計した。

500万人を納める空中墓地
見事に完成した建築物の中で最も有名なのは、数世紀前からイギリスの主要な都市で建てられてきた。イギリスの建築家ジョージ・ヘンリー・ボウは、この建築物を設計した。ボウは、この建築物を設計した。ボウは、この建築物を設計した。

1700年代のイギリスで、主要な都市の人々が集まる場所として、2つの階層からなる建築物が建てられた。イギリスの建築家ジョージ・ヘンリー・ボウは、この建築物を設計した。ボウは、この建築物を設計した。ボウは、この建築物を設計した。

ウォーキング・シティ

Walking City

必要空間へ敷くカメレオン

1700年代のイギリスで、主要な都市の人々が集まる場所として、2つの階層からなる建築物が建てられた。イギリスの建築家ジョージ・ヘンリー・ボウは、この建築物を設計した。ボウは、この建築物を設計した。ボウは、この建築物を設計した。

【報道関係からの問合せ先】 日経ナショナル ジオグラフィック社 広報事務局
株式会社リリオ 担当：仁地（にんち） TEL：03-6438-9195 090-2226-6459 ninchi.mikito@lirio.biz
日経ナショナル ジオグラフィック社 〒105-8308 東京都港区虎ノ門4-3-12